

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	専門学校日本ホテルスクール
設置者名	学校法人日本ホテル学院

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・ 通信 制の 場合	実務経験のある 教員等による 授業科目の 授業時数又は 単位数	省令で定める授 業時数又は基準 単位数	配 置 困 難
商業実務 専門課程	昼間部 国際ホテル学科 ホテル科（2年制）	夜・ 通信	37 単位 (インターンシップ 24 単位は含まず)	7 単位	—
	昼間部 国際ホテル学科 ブライダル科 (2年制)	夜・ 通信	41 単位 (インターンシップ 24 単位は含まず)	7 単位	—
	昼間部 国際ホテル学科 英語専攻科 (2年制) 昼間部	夜・ 通信	35 単位 (インターンシップ 24 単位は含まず)	7 単位	—
	昼間部 国際ホテル学科 SNS コミュニケー ション科（2年制）	夜・ 通信	39 単位 (インターンシップ 24 単位は含まず)	7 単位	—
商業実務 専門課程	夜間部 国際ホテル学科 ホテル科（2年制）	☒ 夜・ 通信	17 単位 (インターンシップ 16 単位は含まず)	4 単位	—
	夜間部 国際ホテル学科 ブライダル科 (2年制)	☒ 夜・ 通信	18 単位 (インターンシップ 16 単位は含まず)	4 単位	—
(備考)					

※記入欄は、必要に応じて、追加・統合可。

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

H. P. 上の各科毎の科目一覧に明記

<https://www.jhs.ac.jp/about/outline/syllabus/>

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名 なし

(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	専門学校日本ホテルスクール
設置者名	学校法人日本ホテル学院

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページ	https://www.jhs.ac.jp/public/
刊行物	入学案内書

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	(株) ホテルオークラ 代表取締役社長	2025. 6. 18 ～2028. 6	理事会等において 業務執行の意思決定・事業計画・財務・ 理事長や他の理事 の職務の執行を監督
非常勤	(株) 西武・プリンス ホテルワールドワイド 常務執行役員	2025. 6. 18 ～2028. 6	理事会等において 業務執行の意思決定・事業計画・財務・ 理事長や他の理事 の職務の執行を監督
(備考) 本校の理事は総員7名。内訳は学外者4名（上記2名を含む）、学内者3名。任期は2028年6月の定時評議員会の終結の時まで。			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	専門学校日本ホテルスクール
設置者名	学校法人日本ホテル学院

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 教育理念を実現するために一般教育科目・語学科目・実習/研修科目・専門科目の4つから授業を構成。1年間を「前期」「後期」の2期に分け、2年制の修学期間を第1期「導入教育」、第2期「基礎教育」、第3期「応用教育」、第4期「総合教育」と規定し、その目的を達成するために必要な授業計画・科目編成を行っている。 【作成について】 毎年度、学校関係者評価や教育課程編成委員会等からの意見を参考に教育集中会議において、検討・論議。講師会議を通して、各科目担当者が作成、統一書式にてシラバス作成を行う。 【時期について】 シラバス作成については、3月中旬までに作成し、3月末ホームページ上にて公表、くわえて刊行物「学校生活案内」を作成、入学直後のオリエンテーション内にて配布している。	
授業計画書の公表方法	教育体系・教育計画 https://www.jhs.ac.jp/about/outline/curriculum/ シラバス https://www.jhs.ac.jp/about/outline/syllabus/
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 各科目の成績評価は、シラバスに明示した評価方法及び評価基準に基づき、出席状況、定期試験、課題・レポート、その他平常点（小テスト、ミニットペーパー、授業への参加状況等）を総合して行う。評価ポイントの合計は100ポイントとし算出された評価ポイントに応じてA,B,C,D,F（F＝単位不認定）の5段階にて評価を行う。評価項目及び配点の構成は、原則として科目ごとに設定する。 但し、学校行事、コミュニケーションアワー、海外研修旅行等は、出席又は参加の状況に応じて、認定を「R」、不認定を「F」として評価し、認定（A～D）は付さない。 また、ホテル・ブライダル企業実習については、実習先企業からの評価と、就労時間数に応じた単位数を付与している。 学習意欲を評価する面では、本校が推奨している各種資格・検定に関して、その取得した等級により、所定の単位を付与し、単位認定を行っている。	

3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。 (客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) A 評価を 4.0、B 評価を 3.0、C 評価を 2.0、D 評価を 1.0 とする。 GPA は、A・B・C・D・F の評価が付された科目を対象とし、各科目の GP に当該科目の単位数を乗じた数値の合計を、GPA 対象科目の総単位数で除して算出する。 R 評価科目は、成績段階を伴わない認定科目であるため、GPA 算出対象外とする。 但し、企業実習については、本校教育課程における重要科目であることから、奨学金等の判定においては、GPA に修得率を乗じた数値を用いる。尚、修得率は、総取得単位数を修得すべき単位数で除して算出する。	
客観的な指標の 算出方法の公表方法	https://www.jhs.ac.jp/public/
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。 (卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 本校の建学の精神及び教育理念に基づき教育目標を実現するために、各科が設定した卒業必要単位数を取得し、社会人として職業に適する資質と能力を修得していること。 また、ホスピタリティ業界において、修得した能力を実践の場において発揮でき、知識・技能・技術・精神・態度・資格等を身につけた学生を認定する。「卒業判定会議」の議決を経て、校長が決する。	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	https://www.jhs.ac.jp/about/outline/policy/ 刊行物 「学校生活案内」(入学時全員に配布)

様式第2号の4－②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4－①を用いること。

学校名	専門学校日本ホテルスクール
設置者名	学校法人日本ホテル学院

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	毎年6月上旬に最新情報をHPに公表 https://www.jhs.ac.jp/public/
収支計算書又は損益計算書	同上
財産目録	同上
事業報告書	毎年6月上旬に最新情報をHPに公表 https://www.jhs.ac.jp/public/
監事による監査報告（書）	毎年6月上旬に最新情報をHPに公表 https://www.jhs.ac.jp/public/

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名		専門士	高度専門士	
商業実務分野		商業実務 専門課程	昼間部国際ホテル学科 ホテル科		○	—	
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	87 単位時間／単位	49 単位時間 ／単位	18 単位時間 ／単位	30 単位時間／ 単位	0 単位時間 ／単位	0 単位時間／ 単位
			97 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
昼間部 4 科の合計 480 人		172 人	2 人	17 人の 内数	75 人の 内数	92 人の 内数	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
様式第 2 号の 3 【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の 1. を参照
成績評価の基準・方法
【様式第 2 号の 3 より再掲】 様式第 2 号の 3 【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の 3. を参照
卒業・進級の認定基準
【様式第 2 号の 3 より再掲】 様式第 2 号の 3 【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の 4. を参照
学修支援等
学校が窓口となり、各種資格・検定試験の申込み、各種情報配信を行うことで学生の啓発機会を提供している。加えて事前対策補講や対策授業を実施し、一つでも多くの資格を取得ができるよう支援を行っている。学内定期試験では、やむを得ない事情がある場合には追試を実施するなど、柔軟な対応を行っている。 また、外部団体主催の各種コンクールやスピーチコンテスト等への応募希望者に対して、担当科目教員が特別講習を開催、モチベーション向上につながる環境を整えている。担任をはじめ、業界出身の教職員による就職相談や専門カウンセラーによる生活相談を含めた各種相談にも対応している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
2026 年 3 月 卒業生実績			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
昼間部国際ホテル学科 ホテル科 84 人 (100%)	1 人 (1.2%)	74 人 (88.1%)	9 人 (10.7%)
(主な就職、業界等) ホテル業界、ブライダル業界、レストラン業界等 (株) 森ビルホスピタリティコーポレーション、(株) 西武・プリンスホテルズワールドワイド、(株) 帝国ホテル、(株) ホテルオークラ東京、(株) 新宿東急ホテルズ、日本ホテル(株)、ヒルトン東京、ハレクラニ沖縄、(株) 京王プラザホテル、			

野村不動産ホテル(株)、フォーシーズンズホテル東京大手町、リゾートトラスト(株)、 有限会社石葉、有限会社シンクロス・リゾート 他
(就職指導内容) 担任制をとっており、学生本人の進路について担任と進路担当者が連携、学生本人の意向を確認しながら、各企業の採用情報をもとに相談・指導にあたる。志望動機や自己 PR の添削および指導、また日本語面接・英語面接の練習等のサポートも行っている。 授業では、1 年入学後から社会人としての役割や業界理解・自己のキャリアプランの作成等を学習目標としたキャリアデザインの実施、就職ガイダンス（身だしなみ・面接試験での基本所作・企業の人事の方を招いての説明会等）を行い、適切な情報提供と採用の早期化に対応。学生は J-ネット（学校独自のシステム）により、24 時間 365 日どこからでも、PC・スマホで就職活動に係る様々な情報を閲覧することができ、キャリアマップの就職プラットフォームで求人検索が可能。
(主な学修成果（資格・検定等）) 資格取得に向けては、学校が推奨する資格・検定対策は授業に組み込み、また放課後を活用して補講を行う等、取得支援を実施。特に業界で重要とされる検定は、その受験料を学費に含め、全員受験を必須としている。 2025 年度の主な取得状況は以下の通り（実績は学校全体） ・ホテルビジネス実務検定 1/2 級合格者 262 名 ・ブライダル基礎力検定中級合格者 55 名 ・ブライダルコーディネート技能検定 3 級合格者 4 名 ・レストランサービス技能検定 3 級合格者 11 名 ・和食検定初級合格者 56 名 ・ユニバーサルマナー検定 3 級合格者 192 名 ・観光英語検定 2/3 級合格者 71 名 ・TOEIC900 点以上 1 名、800 点以上 4 名、700 点以上 6 名、600 点以上 4 名、500 点以上 16 名 等
(備考)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
180 人	5 人	2.8%
中途退学の主な理由) 進路変更、健康上の理由、修学不良		
(中退防止・中退者支援のための取組) ① クラス担任制を導入し、入学時の個別面談の実施、半期ごとに学校生活アンケートによる学生の把握、また随時担当クラス学生の出席状況の確認。 ② 学年主任を配置し、全クラス担任・学年主任からなる担任会議を毎月 1 回開催、学生の現状把握に努め、複数の教員による対応ができる体制づくり。 ③ 各クラスリーダーによるリーダー会（適宜開催）により、クラスの状況や学生の声を直接聴く機会の設定。 ④ 専任カウンセラーによる相談窓口を校内に設置、学生が教職員以外に相談のしやすい環境を整備 ⑤ 「日本ホテル学院奨学金」や「進級特待奨学金」など、本校独自の奨学金制度による経済的支援、 等		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務分野		商業実務 専門課程	昼間部国際ホテル学科 ブライダル科	○	—		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	88 単位時間／ 単位	53 単位時間 / 単位	15 単位時間 / 単位	30 単位時間 / 単位	0 単位時間 / 単位	0 単位時間 / 単位
			98 単位時間／ 単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
昼間部 4 科の合計 480 人		96 人	0 人	17 人の 内数	75 人の 内数	92 人の 内数	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
様式第 2 号の 3 【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の 1. を参照
成績評価の基準・方法
【様式第 2 号の 3 より再掲】 様式第 2 号の 3 【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の 3. を参照
卒業・進級の認定基準
【様式第 2 号の 3 より再掲】 様式第 2 号の 3 【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の 4. を参照
学修支援等
学校が窓口となり、各種資格・検定試験の申込み、各種情報配信を行うことで学生の啓発機会を提供している。加えて事前対策補講や対策授業を実施し、一つでも多くの資格を取得ができるよう支援を行っている。学内定期試験では、やむを得ない事情がある場合には追試を実施するなど、柔軟な対応を行っている。 また、外部団体主催の各種コンクールやスピーチコンテスト等への応募希望者に対して、担当科目教員が特別講習を開催、モチベーション向上につながる環境を整えている。担任をはじめ、業界出身の教職員による就職相談や専門カウンセラーによる生活相談を含めた各種相談にも対応している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
2026 年 3 月卒業生実績			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
昼間部国際ホテル学科 ブライダル科 51 人 (100%)	1 人 (2. 0%)	49 人 (96. 1%)	1 人 (2. 0%)
（主な就職、業界等）ホテル業界、ブライダル業界、レストラン業界等 アールイズ・ウェディング（株）、（株）オンザページ、ディアーズ・ブレイン（株）、 （株）ハツコ エンドウ ウェディングス、（株）ベストアニバーサリー、（株）リブ ラブラフ、（株）ワールドサービス、（株）ミリアルリゾートホテルズ 他			

(就職指導内容) 担任制をとっており、学生本人の進路について担任と進路担当者が連携、学生本人の意向を確認しながら、各企業の採用情報をもとに相談・指導にあたる。志望動機や自己 PR の添削および指導、また日本語面接・英語面接の練習等のサポートも行っている。 授業では、1 年入学後から社会人としての役割や業界理解・自己のキャリアプランの作成等を学習目標としたキャリアデザインの実施、就職ガイダンス（身だしなみ・面接試験での基本所作・企業の人事の方を招いての説明会等）を行い、適切な情報提供と採用の早期化に対応。学生は J-ネット（学校独自のシステム）により、24 時間 365 日どこからでも、PC・スマホで就職活動に係る様々な情報を閲覧することができ、キャリアマップの就職プラットフォームで求人検索が可能。
(主な学修成果（資格・検定等）) 資格取得に向けては、学校が推奨する資格・検定対策は授業に組み込み、また放課後を活用して補講を行う等、取得支援を実施。特に業界で重要とされる検定は、その受験料を学費に含め、全員受験を必須としている。 2025 年度の主な取得状況は以下の通り（実績は学校全体） ・ホテルビジネス実務検定 1/2 級合格者 262 名 ・ブライダル基礎力検定中級合格者 55 名 ・ブライダルコーディネート技能検定 3 級合格者 4 名 ・レストランサービス技能検定 3 級合格者 11 名 ・和食検定初級合格者 56 名 ・ユニバーサルマナー検定 3 級合格者 192 名 ・観光英語検定 2/3 級合格者 71 名 ・TOEIC900 点以上 1 名、800 点以上 4 名、700 点以上 6 名、600 点以上 4 名、500 点以上 16 名 等
(備考)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
99 人	6 人	6.1%
(中途退学の主な理由) 進路変更、健康上の理由、修学不良、就職		
(中退防止・中退者支援のための取組) ① クラス担任制を導入し、入学時の個別面談の実施、半期ごとに学校生活アンケートによる学生の把握、また随時担当クラス学生の出席状況の確認。 ② 学年主任を配置し、全クラス担任・学年主任からなる担任会議を毎月 1 回開催、学生の現状把握に努め、複数の教員による対応ができる体制づくり。 ③ 各クラスリーダーによるリーダー会（適宜開催）により、クラスの状況や学生的心声を直接聴く機会の設定。 ④ 専任カウンセラーによる相談窓口を校内に設置、学生が教職員以外に相談のしやすい環境を整備 ⑤ 「日本ホテル学院奨学金」や「進級特待奨学金」など、本校独自の奨学金制度による経済的支援、 等		

分野		課程名	学科名		専門士	高度専門士	
商業実務分野		商業実務 専門課程	昼間部国際ホテル学科 英語専攻科		○	—	
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	87 単位時間／ 単位	49 単位時間 / 単位	18 単位時間 / 単位	30 単位時間 / 単位	0 単位時間 / 単位	0 単位時間 / 単位
			97 単位時間／ 単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
昼間部 4 科の合計 480 人		53 人	6 人	17 人の 内数	75 人の 内数	92 人の 内数	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
様式第 2 号の 3 【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の 1. を参照
成績評価の基準・方法
【様式第 2 号の 3 より再掲】 様式第 2 号の 3 【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の 3. を参照
卒業・進級の認定基準
【様式第 2 号の 3 より再掲】 様式第 2 号の 3 【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の 4. を参照
学修支援等
学校が窓口となり、各種資格・検定試験の申込み、各種情報配信を行うことで学生の啓発機会を提供している。加えて事前対策補講や対策授業を実施し、一つでも多くの資格を取得ができるよう支援を行っている。学内定期試験では、やむを得ない事情がある場合には追試を実施するなど、柔軟な対応を行っている。 また、外部団体主催の各種コンクールやスピーチコンテスト等への応募希望者に対して、担当科目教員が特別講習を開催、モチベーション向上につながる環境を整えている。担任をはじめ、業界出身の教職員による就職相談や専門カウンセラーによる生活相談を含めた各種相談にも対応している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
2026 年 3 月 卒業生実績			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
昼間部国際ホテル学科 英語専攻科 26 人 (100%)	0 人 (0.0%)	22 人 (84.6%)	4 人 (15.4%)
（主な就職、業界等）ホテル業界、ブライダル業界、レストラン業界等 アコー・ラグジュアリー・ジャパン合同会社、（株）オーシャンホテルシステムズ、 大手町タワーリゾーツ（株）、パークタワーホテル（株）、（株）強羅花扇、志摩リ ゴートマネジメント（株）、ANA 成田エアポートサービス（株） 他			

(就職指導内容) 担任制をとっており、学生本人の進路について担任と進路担当者が連携、学生本人の意向を確認しながら、各企業の採用情報をもとに相談・指導にあたる。志望動機や自己 PR の添削および指導、また日本語面接・英語面接の練習等のサポートも行っている。 授業では、1 年入学後から社会人としての役割や業界理解・自己のキャリアプランの作成等を学習目標としたキャリアデザインの実施、就職ガイダンス（身だしなみ・面接試験での基本所作・企業の人事の方を招いての説明会等）を行い、適切な情報提供と採用の早期化に対応。学生は J-ネット（学校独自のシステム）により、24 時間 365 日どこからでも、PC・スマホで就職活動に係る様々な情報を閲覧することができ、キャリアマップの就職プラットフォームで求人検索が可能。
(主な学修成果（資格・検定等）) 資格取得に向けては、学校が推奨する資格・検定対策は授業に組み込み、また放課後を活用して補講を行う等、取得支援を実施。特に業界で重要とされる検定は、その受験料を学費に含め、全員受験を必須としている。 2025 年度の主な取得状況は以下の通り（実績は学校全体） ・ホテルビジネス実務検定 1/2 級合格者 262 名 ・ブライダル基礎力検定中級合格者 55 名 ・ブライダルコーディネート技能検定 3 級合格者 4 名 ・レストランサービス技能検定 3 級合格者 11 名 ・和食検定初級合格者 56 名 ・ユニバーサルマナー検定 3 級合格者 192 名 ・観光英語検定 2/3 級合格者 71 名 ・TOEIC900 点以上 1 名、800 点以上 4 名、700 点以上 6 名、600 点以上 4 名、500 点以上 16 名 等
(備考)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
51 人	2 人	3.9%
(中途退学の主な理由) 経済的理由、学校不適応		
(中退防止・中退者支援のための取組) ① クラス担任制を導入し、入学時の個別面談の実施、半期ごとに学校生活アンケートによる学生の把握、また随時担当クラス学生の出席状況の確認。 ② 学年主任を配置し、全クラス担任・学年主任からなる担任会議を毎月 1 回開催、学生の現状把握に努め、複数の教員による対応ができる体制づくり。 ③ 各クラスリーダーによるリーダー会（適宜開催）により、クラスの状況や学生の声を直接聴く機会の設定。 ④ 専任カウンセラーによる相談窓口を校内に設置、学生が教職員以外に相談のしやすい環境を整備 ⑤ 「日本ホテル学院奨学金」や「進級特待奨学金」など、本校独自の奨学金制度による経済的支援、 等		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務分野		商業実務 専門課程	昼間部国際ホテル学科 ホテル SNS コミュニケ ーション科	○	—		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	88 単位時間／ <u>単位</u>	51 単位時間 / <u>単位</u>	17 単位時間 / <u>単位</u>	30 単位時間 / <u>単位</u>	0 単位時間 / <u>単位</u>	0 単位時間 / <u>単位</u>
			98 単位時間／ <u>単位</u>				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
昼間部 4 科の合計 480 人		5 人	0 人	17 人の 内数	75 人の 内数	92 人の 内数	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
様式第 2 号の 3 【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の 1. を参照
成績評価の基準・方法
【様式第 2 号の 3 より再掲】 様式第 2 号の 3 【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の 3. を参照
卒業・進級の認定基準
【様式第 2 号の 3 より再掲】 様式第 2 号の 3 【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の 4. を参照
学修支援等
学校が窓口となり、各種資格・検定試験の申込み、各種情報配信を行うことで学生の啓発機会を提供している。加えて事前対策補講や対策授業を実施し、一つでも多くの資格を取得ができるよう支援を行っている。学内定期試験では、やむを得ない事情がある場合には追試を実施するなど、柔軟な対応を行っている。 また、外部団体主催の各種コンクールやスピーチコンテスト等への応募希望者に対して、担当科目教員が特別講習を開催、モチベーション向上につながる環境を整えている。担任をはじめ、業界出身の教職員による就職相談や専門カウンセラーによる生活相談を含めた各種相談にも対応している。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
2026 年 3 月 卒業者実績			
卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
昼間部国際ホテル学科 SNS コミュニケーション科 1 人 (%)	0 人 (%)	1 人 (100.0%)	0 人 (%)
(主な就職、業界等) (株) ホテルオークラ東京			

(就職指導内容) 担任制をとっており、学生本人の進路について担任と進路担当者が連携、学生本人の意向を確認しながら、各企業の採用情報をもとに相談・指導にあたる。志望動機や自己 PR の添削および指導、また日本語面接・英語面接の練習等のサポートも行っている。 授業では、1 年入学後から社会人としての役割や業界理解・自己のキャリアプランの作成等を学習目標としたキャリアデザインの実施、就職ガイダンス（身だしなみ・面接試験での基本所作・企業の人事の方を招いての説明会等）を行い、適切な情報提供と採用の早期化に対応。学生は J-ネット（学校独自のシステム）により、24 時間 365 日どこからでも、PC・スマホで就職活動に係る様々な情報を閲覧することができ、キャリアマップの就職プラットフォームで求人検索が可能。
(主な学修成果（資格・検定等）) 資格取得に向けては、学校が推奨する資格・検定対策は授業に組み込み、また放課後を活用して補講を行う等、取得支援を実施。特に業界で重要とされる検定は、その受験料を学費に含め、全員受験を必須としている。 2025 年度の主な取得状況は以下の通り（実績は学校全体） ・ホテルビジネス実務検定 1/2 級合格者 262 名 ・ブライダル基礎力検定中級合格者 55 名 ・ブライダルコーディネート技能検定 3 級合格者 4 名 ・レストランサービス技能検定 3 級合格者 11 名 ・和食検定初級合格者 56 名 ・ユニバーサルマナー検定 3 級合格者 192 名 ・観光英語検定 2/3 級合格者 71 名 ・TOEIC900 点以上 1 名、800 点以上 4 名、700 点以上 6 名、600 点以上 4 名、500 点以上 16 名 等
(備考)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
4 人	1 人	25.0%
(中途退学の主な理由) 学校不適応		
(中退防止・中退者支援のための取組) ⑥ クラス担任制を導入し、入学時の個別面談の実施、半期ごとに学校生活アンケートによる学生の把握、また随時担当クラス学生の出席状況の確認。 ⑦ 学年主任を配置し、全クラス担任・学年主任からなる担任会議を毎月 1 回開催、学生の現状把握に努め、複数の教員による対応ができる体制づくり。 ⑧ 各クラスリーダーによるリーダー会（適宜開催）により、クラスの状況や学生の声を直接聴く機会の設定。 ⑨ 専任カウンセラーによる相談窓口を校内に設置、学生が教職員以外に相談のしやすい環境を整備 ⑩ 「日本ホテル学院奨学金」や「進級特待奨学金」など、本校独自の奨学金制度による経済的支援、 等		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務分野		商業実務 専門課程	夜間部国際ホテル学科 ホテル科	—	—		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	夜	47 単位時間／ 単位	24 単位時間 / 単位	10 単位時間 / 単位	19 単位時間 / 単位	0 単位時間 / 単位	0 単位時間 / 単位
			53 単位時間／ 単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
夜間部 2 科の合計 160 人		79 人	0 人	17 人の 内数	75 人の 内数	92 人の 内数	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
様式第 2 号の 3 【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の 1. を参照
成績評価の基準・方法
【様式第 2 号の 3 より再掲】 様式第 2 号の 3 【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の 3. を参照
卒業・進級の認定基準
【様式第 2 号の 3 より再掲】 様式第 2 号の 3 【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の 4. を参照
学修支援等
学校が窓口となり、各種資格・検定試験の申込み、各種情報配信を行うことで学生の啓発機会を提供している。加えて事前対策補講や対策授業を実施し、一つでも多くの資格を取得ができるよう支援を行っている。学内定期試験では、やむを得ない事情がある場合には追試を実施するなど、柔軟な対応を行っている。 また、外部団体主催の各種コンクールやスピーチコンテスト等への応募希望者に対して、担当科目教員が特別講習を開催、モチベーション向上につながる環境を整えている。担任をはじめ、業界出身の教職員による就職相談や専門カウンセラーによる生活相談を含めた各種相談にも対応している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
2026 年 3 月 卒業生実績			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
夜間部国際ホテル学科 ホテル科 28 人 (100%)	0 人 (0.0%)	26 人 (92.9%)	2 人 (7.1%)
(主な就職、業界等) ホテル業界、レストラン業界等 (株) 西武・プリンスホテルズワールドワイド、(株) 帝国ホテル、(株) ニュー・オータニ、野村不動産ホテルズ(株)、三井不動産リゾートマネジメント(株)、(株) 森ビルホスピタリティコーポレーション 他			

(就職指導内容) 担任制をとっており、学生本人の進路について担任と進路担当者が連携、学生本人の意向を確認しながら、各企業の採用情報をもとに相談・指導にあたる。志望動機や自己 PR の添削および指導、また日本語面接・英語面接の練習等のサポートも行っている。 1 年次から就職ガイダンス（身だしなみ・面接試験での基本所作・企業の人事の方を招いての説明会等）を行い、適切な情報提供と採用の早期化に対応。学生は J-ネット（学校独自のシステム）により、24 時間 365 日どこからでも、PC・スマホで就職活動に係る様々な情報を閲覧することができ、キャリアマップの就職プラットフォームで求人検索が可能。
(主な学修成果（資格・検定等）) 資格取得に向けては、学校が推奨する資格・検定対策は授業に組み込み、また放課後を活用して補講を行う等、取得支援を実施。特に業界で重要とされる検定は、その受験料を学費に含め、全員受験を必須としている。 2025 年度の主な取得状況は以下の通り（実績は学校全体） ・ホテルビジネス実務検定 1/2 級合格者 262 名 ・ブライダル基礎力検定中級合格者 55 名 ・ブライダルコーディネート技能検定 3 級合格者 4 名 ・レストランサービス技能検定 3 級合格者 11 名 ・和食検定初級合格者 56 名 ・ユニバーサルマナー検定 3 級合格者 192 名 ・観光英語検定 2/3 級合格者 71 名 ・TOEIC900 点以上 1 名、800 点以上 4 名、700 点以上 6 名、600 点以上 4 名、500 点以上 16 名 等
(備考)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
75 人	6 人	8.0%
(中途退学の主な理由) 健康上の理由、修学不良		
(中退防止・中退者支援のための取組) ①クラス担任制を導入し、入学時の個別面談の実施、半期ごとに学校生活アンケートによる学生の把握、また随時担当クラス学生の出席状況の確認。 ②学年主任を配置し、全クラス担任・学年主任からなる担任会議を毎月 1 回開催、学生の現状把握に努め、複数の教員による対応ができる体制づくり。 ③各クラスリーダーによるリーダー会（適宜開催）により、クラスの状況や学生の声を直接聴く機会の設定。 ④専任カウンセラーによる相談窓口を校内に設置、学生が教職員以外に相談のしやすい環境を整備。 ⑤「日本ホテル学院奨学金」や「進級特待奨学金」など、本校独自の奨学金制度による経済的支援、 等		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務分野		商業実務 専門課程	夜間部国際ホテル学科 ブライダル科	—	—		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	夜	47 単位時間／ <u>単位</u>	24 単位時間 / <u>単位</u>	10 単位時間 / <u>単位</u>	19 単位時間 / <u>単位</u>	0 単位時間 / <u>単位</u>	0 単位時間 / <u>単位</u>
			53 単位時間／ <u>単位</u>				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
夜間部 2 科の合計 160 人		28 人	0 人	17 人の 内数	75 人の 内数	92 人の 内数	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
様式第 2 号の 3 【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の 1. を参照
成績評価の基準・方法
【様式第 2 号の 3 より再掲】 様式第 2 号の 3 【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の 3. を参照
卒業・進級の認定基準
【様式第 2 号の 3 より再掲】 様式第 2 号の 3 【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の 4. を参照
学修支援等
学校が窓口となり、各種資格・検定試験の申込み、各種情報配信を行うことで学生の啓発機会を提供している。加えて事前対策補講や対策授業を実施し、一つでも多くの資格を取得ができるよう支援を行っている。学内定期試験では、やむを得ない事情がある場合には追試を実施するなど、柔軟な対応を行っている。 また、外部団体主催の各種コンクールやスピーチコンテスト等への応募希望者に対して、担当科目教員が特別講習を開催、モチベーション向上につながる環境を整えている。担任をはじめ、業界出身の教職員による就職相談や専門カウンセラーによる生活相談を含めた各種相談にも対応している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
2026 年 3 月 卒業生実績			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
夜間部国際ホテル学科 ブライダル科 8 人 (100%)	0 人 (0.0%)	8 人 (100.0%)	0 人 (0.0%)
（主な就職、業界等）ホテル業界、ブライダル業界、レストラン業界等 アールイズ・ウェディング（株）、グレイスホテル（株）、（株）東武ホテルマネジ メント、日本ホテル（株）、（株）マイム、（株）ロイヤルホール 他			

(就職指導内容) 担任制をとっており、学生本人の進路について担任と進路担当者が連携、学生本人の意向を確認しながら、各企業の採用情報をもとに相談・指導にあたる。志望動機や自己 PR の添削および指導、また日本語面接・英語面接の練習等のサポートも行っている。 1 年次から就職ガイダンス（身だしなみ・面接試験での基本所作・企業の人事の方を招いての説明会等）を行い、適切な情報提供と採用の早期化に対応。学生は J-ネット（学校独自のシステム）により、24 時間 365 日どこからでも、PC・スマホで就職活動に係る様々な情報を閲覧することができ、キャリアマップの就職プラットフォームで求人検索が可能。
(主な学修成果（資格・検定等）) 資格取得に向けては、学校が推奨する資格・検定対策は授業に組み込み、また放課後を活用して補講を行う等、取得支援を実施。特に業界で重要とされる検定は、その受験料を学費に含め、全員受験を必須としている。 2025 年度の主な取得状況は以下の通り（実績は学校全体） ・ホテルビジネス実務検定 1/2 級合格者 262 名 ・ブライダル基礎力検定中級合格者 55 名 ・ブライダルコーディネート技能検定 3 級合格者 4 名 ・レストランサービス技能検定 3 級合格 11 名 ・和食検定初級合格者 56 名 ・ユニバーサルマナー検定 3 級合格者 192 名 ・観光英語検定 2/3 級合格者 71 名 ・TOEIC900 点以上 1 名、800 点以上 4 名、700 点以上 6 名、600 点以上 4 名、500 点以上 16 名 等
(備考)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
22 人	0 人	0.0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) ①クラス担任制を導入し、入学時の個別面談の実施、半期ごとに学校生活アンケートによる学生の把握、また随時担当クラス学生の出席状況の確認。 ②学年主任を配置し、全クラス担任・学年主任からなる担任会議を毎月 1 回開催、学生の現状把握に努め、複数の教員による対応ができる体制づくり。 ③各クラスリーダーによるリーダー会（適宜開催）により、クラスの状況や学生の声を直接聴く機会の設定。 ④専任カウンセラーによる相談窓口を校内に設置、学生が教職員以外に相談のしやすい環境を整備。 ⑤「日本ホテル学院奨学金」や「進級特待奨学金」など、本校独自の奨学金制度による経済的支援、 等		

②学校単位の情報

a)「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考（任意記載事項）
昼間部国際 ホテル学科 (ホテル科/ブ ライダル科)	100,000 円	1,272,000 円	220,000 円	
昼間部国際 ホテル学科 (英語専攻科/ ホテル SNS コ ミュニケーシ ョ科)	100,000 円	1,292,000 円	220,000 円	
夜間部国際 ホテル学科 (ホテル科/ブ ライダル科)	80,000 円	564,000 円	126,000 円	
	円	円	円	
修学支援（任意記載事項）				
① 学校独自の奨学金（特待生奨学金 1 年次・2 年次）1 年次は、入学選考時の面接・筆記試験、2 年次は成績評価において基準をクリアした者にその成績に応じ、授業料の一部を減免するもの ② A0 チャレンジ奨学金（1 年次）A0 入学選考で受験する方で入学選考時の面接での評価により、1 年次の授業料の一部を免除するもの。 ③ 日本ホテル学院奨学金（1 年次）ホテル・レストラン・ブライダル業界への関心や学習意欲が高いと判断された者に入学金を免除するもの。 ④ 応急奨学金 在学中、経済状況の急変等により、学業の継続が困難になった学生に対し無利子で学費相当額を貸与するもの				

b) 学校評価

自己点検評価結果の公表方法
公表URLアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法 前年度評価について、学校 HP 上に公開している。 https://www.jhs.ac.jp/public/
第三者評価の基本方針（実施方法・体制含む）
学校関係者として専任した、教育関係者、業界関係者、卒業生、保護者等の学校関係者が、学校自らが実施した「自己評価」の結果についてその評価が妥当であるか、否か、他に改善すべきものがないか、要望等を委員 5 名、職員 5 名による会議により意見交換を行い、ホームページ上において公表する。 自己評価の客観性、透明性を高め、本校と密接に関係する学校関係者の理解促進や連携体制による学校運営の改善を図る。 主な評価項目：①教育理念・人材育成像②学校運営③教育活動④学習・教育成果⑤学生支援⑥教育環境⑦学生募集と受入れ⑧財務⑨法令等の遵守⑩社会貢献・地域貢献・国際交流

第三者評価の委員		
所属	任期	種別
団体職員 事務局長	2024 年 11 月 1 日 ～2027 年 10 月 31 日	教育関連団体
一般財団法人 職員	2025 年 9 月 1 日 ～2028 年 8 月 31 日	業界関連団体
専門学校日本ホテルスクール同窓会 副会長	2023 年 12 月 1 日 ～2026 年 11 月 30 日	卒業生
専門学校日本ホテルスクール同窓会 監事	2023 年 12 月 1 日 ～2026 年 11 月 30 日	卒業生
専門学校日本ホテルスクール同窓会 監事	2023 年 12 月 1 日 ～2026 年 11 月 30 日	卒業生
第三者評価結果の公表方法 ホームページ https://www.jhs.ac.jp/public/		
公表URLアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法 前年度評価について、学校 HP 上にて公開している。 https://www.jhs.ac.jp/public/		
(備考)		
第三者評価は未実施で、今後の実施予定について現在検討・調整中である。そのため 上記表中の第三者評価に係る各項目は、昨年度に実施した学校関係者評価に関する情 報を記載している。		

c) 当該学校に係る情報

公表URLアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法 https://www.jhs.ac.jp/ 入学案内書・募集要項等各種刊行物は、電話・ホームページから請求可

(別紙)

- ※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。
- ※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	H113311400157
学校名（〇〇大学 等）	専門学校日本ホテルスクール
設置者名（学校法人〇〇学園 等）	学校法人日本ホテル学院

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生等（内数） ※家計急変による者を除く。		98 人（57人）	97 人（54人）	98 人（57人）
内 訳	第Ⅰ区分	22 人	16 人	
	（うち多子世帯）	（－人）	（－人）	
	第Ⅱ区分	－ 人	12 人	
	（うち多子世帯）	（－人）	（－人）	
	第Ⅲ区分	13 人	－ 人	
	（うち多子世帯）	（－人）	（－人）	
	第Ⅳ区分（理工農）	0 人	0 人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	18 人	15 人	
	区分外（多子世帯）	29 人	30 人	
家計急変による 支援対象者（年間）				0 人（0人）
合計（年間）				98 人（57人）
（備考）				

- ※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。
- ※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	人	0人	0人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単 位時間数が廃止の基準に該当）	人	0人	0人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意 欲が著しく低い状況	人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	人	0人	0人
計	人	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良である
ことについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、 高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2 年以下のものに限る。）			
年間	人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたこと
により認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学(3月未満の期間のものに限る。)又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	-人
年間計	-人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。)&及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。)	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	人	0人	-人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。)&及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。)	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単 位時間数が警告の基準に該当)	人	0人	0人
GPA等が下位4分の1	人	11人	-人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意 欲が低い状況	人	0人	0人
計	人	11人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。